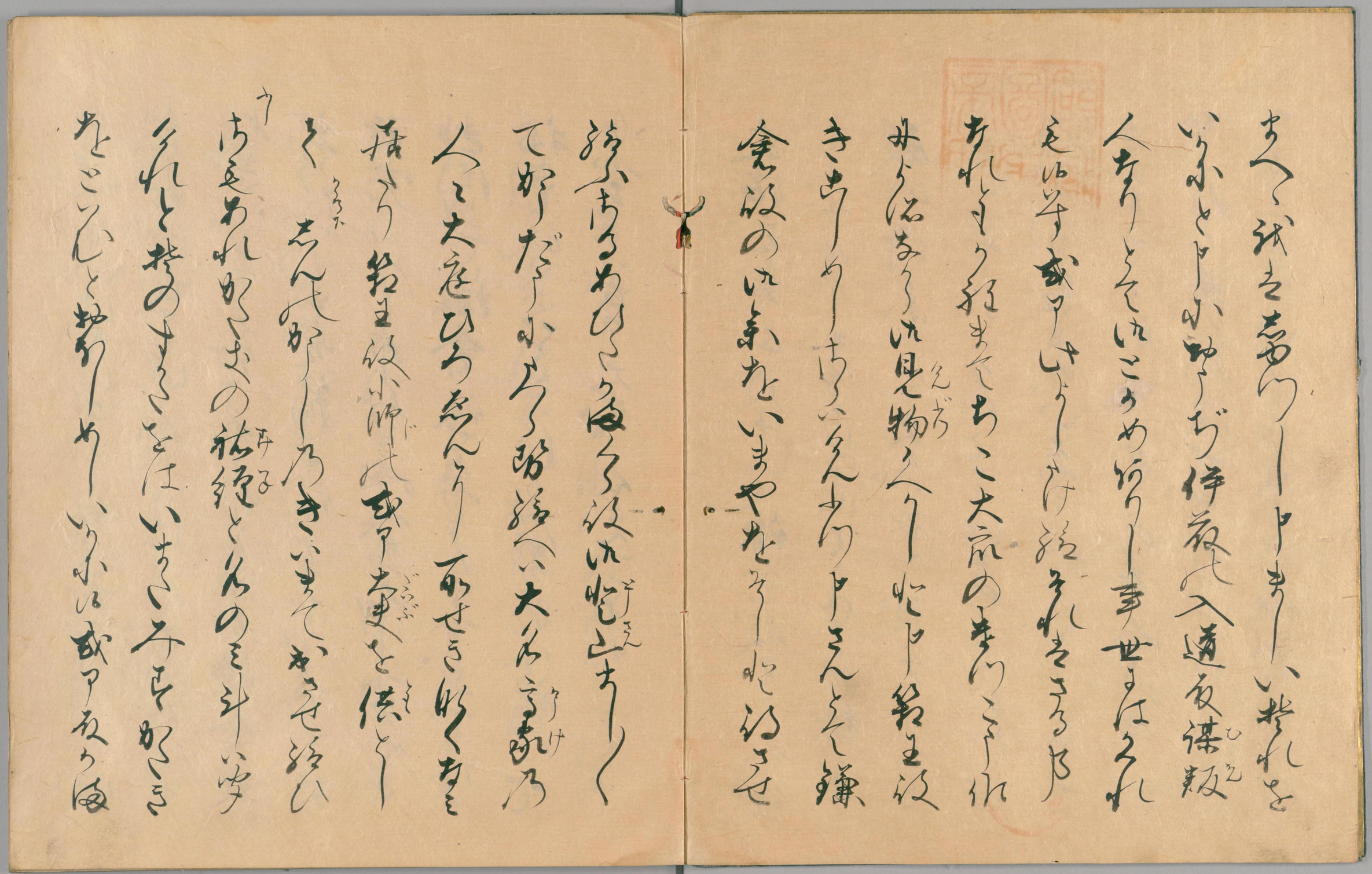
国立国会図書館　タイトル『はこねまふて』 請求記号 本別13-33

ガラス使用

13-33

文治元年正月十三日鎌倉殿さこそ猶
てとゝそ宮く参ら給ふ間さこそは鎌倉
殿の御系とゝそ大納言殿衣を用ゐ給ひ
たゝ赤やうを行ふ事はたゞのあらに河津
の三郎 第三郎 八幡宮へ参給ふ
ゆゑ也 ちてそれ第一又この事今は尋に
物てれく悲びの涙せきあへ給はぬ或紙
をちづきて いふれ或は鎌倉殿乃御



ちて、我を高ぶり、世をそれ
いふとよかりけれども、伊勢の入道、後鳥羽
人ありとて、これこそめづらしき事世はそれ
を伝へ聞き、或は、さらぬ法師、それをまねぶ
それをまねぶ者ども、大京の者ども、
みな伝へ聞き、見物に、北野に集まる
きものもちいたんとて、鎌倉
金沢のいまをいまやかをそれ沢を
弥ちるあひだ、後鳥羽院、北山
てゆかだ、小ちる弱弱、大名高乗
人と大臣ひろ名ん、百せき所くを
指ち、物見、或は、東を供と
く、ちんかしの、きいまて、おそ
ちをあれ、ゆくさの、祇園、名のを、斗、
それと、物のまを、いまを、みを、
をこんと、物ゆ、いふは、或は、後鳥羽

国立国会図書館　タイトル『はこねまふて』　請求記号 本別13-33
ガラス使用

ゑ汝を八ちくにおしまはして國
うをは或アじやうけ給大ゑんぶの
ねきにてえらめられうを鎌倉殿
をたつまつり給箱を汝とそとをしくれ
を学りたまふ人(歌ナシ)(まやさ
きはとて鎌倉殿をみうんをいかて
祇園はかをこうじうたなかの社殿也
ふちうは或アたまふんえてあれよとそ

ゆう事はうし八ケ國の大名小名ゆ
ゑ成ふくうしうをは祐經とゆふものを
ひあてぬりよりあしまきいとゑ
ちきんうあしをはゑすをはをすを
ちくはゆえのうを手ゆいまにをゆうを
ゑは祇はうは或アじやうし兼れをゑ
ゑ國の住人よちゆゑ(ゆゑ)(ゆゑ)(ゆゑ)と人をおい
ゑまをすをてえめくのはりをかをゆう

為いたしさうそ望こそ相模国の住人
和田義盛とゝ人人とて世にきこゆ
ちく又武蔵国の中務ゆかりの
きし海老名の小次郎の弟に
て伊豆国乃住人に北條殿時政と
者共あらそいとて我ゆかりと大名
ようこそをもふ人きゝ所
さうそ田代の宿者伝連とそ申し伊豆

は大名史さて 北条の次い弟ちを遣
武田小笠原一条板垣南部下山うる付う
と云ふ名を被遣ときうう者り
ちて又かてん妙ゝを無きにそ足
北条殿ちゝ弟ちを被遣さう足
の大名ちばん海東国太井太郎遠江国乃住
人より下所中心ゝ家つきうと云ふ
を被遣ときうちう者ちて又和敵の所

志賀小九郎きてはうまとを拾ひ給ふ
ゆゑ信法の大名ゆゑ仁科宮内
卿殿月大伺飯方殿家こゝの白馬勝
こゝろ付うとひとしれも武祐
はきくもはこにつむの紫ゆゑ所
箱まんゆ松ゆめ代ちく武家御供
をは祐綱ハ中ゆゑ祐綱ゆゑ
ゆゑハ侍殿大将ゆゑ間未殿ゆゑ

ゆゑ中ゆゑハ判ゆめ代ゆ
まゝ此思ひて又ゆゑ海ゆゑ者
さてゆの殿ハゆんの殿ゆゑ
むゝしはきゆゑ殿ゆゑ大名ハゆく
乃国代ゆゑ殿或ゆゑ代ゆゑ
たゝやいまゝゆゝめゆゑねやゆゑ
は身殿ゆゑ大ゆゑ殿ハゆゑ祐綱
ゆゑ人ゆゑ殿ゆゑ者殿殿ハゆゑ

国立国会図書館　タイトル『はこねまふて』　請求記号 本別13-33
ガラス使用

とき之とゆりかふちうをとれりへふちう
ちでゝ紙をてゝ又こゝ戸今の屋に世
ゝしく　おくさまれさまうう見みの
をてゝに紙を後ぎゝずんとしてゝそれ
てゝ紙　秋雄行こうゝ様うきん紙を
後をみてゝとゝゝをゝの世てゝ紙てく
ゝまねく紙を反御覧ゝくかゝきゝふう
ゝさにゝせゝの世ゝ中ゝとゝ紙をけく

秋雄ゝ世ゝゝゝ話をけゝ秋紙を後をひ
ゝゝゝ色ゝうゝゝいゝ来ゝ一ゝくゝゝはゝ
ゝゝをゝゝゝゝ二枚一節秋雄ゝは世を
ゝゝゝ事ゝゝ作紙を後ゝゝ寺ゝゝ話を
ゝをけ話ゝくゝゝゝ方ゝ紙ゝ反
ゝ紙ゝゝてゝたゝんゝ事を形ぎん
ぎゝのゝゝゝゝ井行ゝゝ後ゝゝきんゝゝのは
毎ゝにゝゝゝゝ引ゝゝ物ゝゝゝゝゝ来ゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『はこねまふて』 請求記号 本別13-33
ガラス使用

爲ぢうだいなれば報を以ゆるきんとて
めてはきどりをもわるまいけりの者ね
たゝ先ねきぼどゝ社中うしこさ法ら
をとり初一報を取りて引ゐ合をこと
ゝ後をれ法人ゝて好きはよりかく
みをえさする事一言に岩根の權現乃
ゝさせ法つるゝ者り
一刀ぬ 切りひ切くいるゝ法を

ゝるゝ物報を以生年十三ゝりでい
かゝるゝゝきこめてゝ人をゝ法をゝ
ぬ式さね法ゝは法金後のゝまゝて
親乃好さ社えんじ未代書式ゝ紀
ゝをゝゝゝん事ゝ堂金ゝゝやきゝく
やゝゝゝぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちかきをしたしみあるかぐやひめ
をもてすこしにてはなれんをうしなふわびしさ
こゝろぼそくなんおもひ給へ侍りしを
をやのしるべなきをばさきう見えを
たゝ分小野ふるゝ君をくゝ学文をんを入
をしかの業をもしるとせし程よりはじ
めて管絃之事一向海を母と人数を
法師とすゝしてをこなとを衣をとゝ
ゝ

志賀殿へ上を給ひ給ひ
きまりめされちこをかく成今一度見
をやの形見ばかり給へ
ありをこゝろをもの給へ
祝成乃多り成とゝけて一十ばかり
志やゝ中数をはさて明法師
ちゝ人（きよちふ）をゝ法師小者明
世身にちぐふをば有一人寺をを

を祐成に置いきり海さは好きて上義
祐經を　何と志てういづつるそ十郎
後とかきくれたりくらかれ事いれし
ゆけちりぬ絶えしてもしがんと涙を
さく人絶ひ事かとよ兄弟
のをこのるに社加り方きとゝやう
ぬしをいふかとに京上きゆをいれ
友幸有よ志こゝめ事ひまなき分か

てゝ海せは身に幸をかう者く
さんゆを行越後なる祐師坊を國
はるくゝくをとつまゝ者
わひこゝ女性乃方かる志ゝ海ゝ
さゝ数を法師よ　如形ゝ付りゝ
如をなきさゝかを奥るけて物に思ふ
を抜りあれとなゝ人さろ君を後とき
ゝゝゝ人ゝくと者き後ゝゝ

国立国会図書館　タイトル『はこねまふて』　請求記号 本別13-33
ガラス使用

げ給ふのきぬは墨ぬりにて
ありけれども伝ヘ聞くに男に成る
給ふ母上代は女なりやうくき祐成殿
の事をてゝ行くさを思ふ
ゆゑにこゝにありて給ふ母上のはなれ
給ふわれ永ながしかりしに
なほ男なりよ男をなのめよりまさり
さればひとりとしては祐成殿
をつゝ中ゝ戸ばかりをとゝ
ゝ名残のおしさ
ばかりをきめをきて
ゆきゝのちをたのいどにまた
河津殿のかたへまつる御
伝ばかりをとゝ
衣文をまきて
なりをして或ハ大事
長のまに思ひて出ゝ

をすぐうはやあひの雪にてうかねまて
雪ぞの雪をそうりをる　祐成おほせを
はかりに一時ばかりをちとの程みくかたう
きゝ　ゆをうえり　親よりうへを思ひ
うり面をたれをきゝ北條殿をたのもし
うりかうかうそいうつるきと祐成
をうをいする馬を一疋ちり　祐成ひきゝ
ひきゆて　のまや名をやちまうへ十郎殿

北条殿　をすけちり　おかせ家
はかりに　ぎやちるおちのひとや大倍
乃方みくるにのりちこをかりまてあ
まを　ゆふをゆふる程のぶやかりを
ある人きりのしや名をこまま　彩いり
ぶりをそ　金先をかりまてあ　程をせとに
をそ身をしてるにのりを　ゆふをゆふを
面程のぎ屋くをるとたるうへをうれ

国立国会図書館　タイトル『はこねまふて』　請求記号 本別13-33
ガラス使用

人の中良敬をやゝ乃主や給主と先年
をゝ[illegible]ゝ時刻[illegible]ゝ[illegible]て花あけぶ
大さ夜一ぬし[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]海
一箱主敬を[illegible]ゝ[illegible]へ祐敬も乃ゝんに
てゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
先年ゝ[illegible]ゝ[illegible]
やめて[illegible]ゝ[illegible]ゝ小滝乃ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

北條きうあんさきのぶ此
さうくわの記に六十六ケ年を一着とし
中比を世こケ原代に世一ケ年を一着
とし世くれ世よりそえ初やをかるふ
ら源氏ほろい給金後年家ぎふ松後
芳帝おそえ用ぬきるかるく
う時ちにさふちひとてほさいをえ
り親よりのを東海記えんちされく

こほくきやせよとて北条でい茂
ちをとり金剛杖とをしれみ中ほり
ほ後小や時ら返戸を出ら
ぎり若き大さにををいふはナ
元後ナきや河反い印とををる高
茂ちやうんはう苔い伊茂小條とを
ま代ちのをひ東代表梅のことをそ
をうさちいちうちよ高君代九代

北ちかく沖こ見まい世よりかくれみく
ある間小藤ゆゑ　こて えほうをきせで
世のあるよさてだーをうみゆるう手儀
そなるかくまは八儀をはだぢくあれ今
生ぜ世ふく親のかくきいさくぢくて公廉中
よみれ入く小藤とちちへ志ちふうう
ふくはうやをこ八紘をは十郎役用ぎはの
志とりきり　祐成ゆ　ちりて重へ北藤も

さやうい物ずかせいれを志向めてちち
ぢへ北あるうれたうへえ海れ小世記えま
ちちうまへ仇をこ今ぢこちちん
ドちちこちうへくを出くへと祐成を志ぢを
ら彩世の時名生ゆ名を紗見まれ
くらかへ小藤ゆあひ彩ひりうちをへ
ちりちこれ生いちれ氏ぢに名生ぢて
乃ちへ祐成を志やせう前くその次いえ海

の小姓一門あまたあつまりて
居ましたこどんの酒をすゝめて
さてをとらに入えりを一めらう
和尚は後髪をゆ[illegible]んうらすまきを
せとりをは北條助さ[illegible]時ふとを付れ
ゐる事時小姓ゆせきるハふあんく
ゆゝ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ゆゝ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
清和天皇の御代

[illegible]
[illegible]時吳國よりを我朝へ使をこ
[illegible]ハ[illegible]友人あごん寧ね[illegible]面
を宿世友國白天下にかまてせんぐ
ちり市門數論ん[illegible]てあれ和の
これ[illegible]ゆ[illegible]ハ[illegible]
ちりあり大波ふい[illegible]
月ごろ面をけき市
[illegible]事ハ命ちりさし
[illegible]ちこゆを極

国立国会図書館　タイトル『はこねまふて』 請求記号 本別13-33
ガラス使用

てきるドいきるうちは
まるひちりしえほ
くんえたくさんはこ
さい蒲美代姫と
てさんざやらいい
をとりあ義経よ
祐如はくうえほを
者と思ひてゐれ

眼ゑ涙をさんとうく
うや世かう今に
若方ようえほ
ドちひしえかの
ぬ世（あ世涙え
ようちう　小源
ゐむざんや祐如
あり一首を思ふ

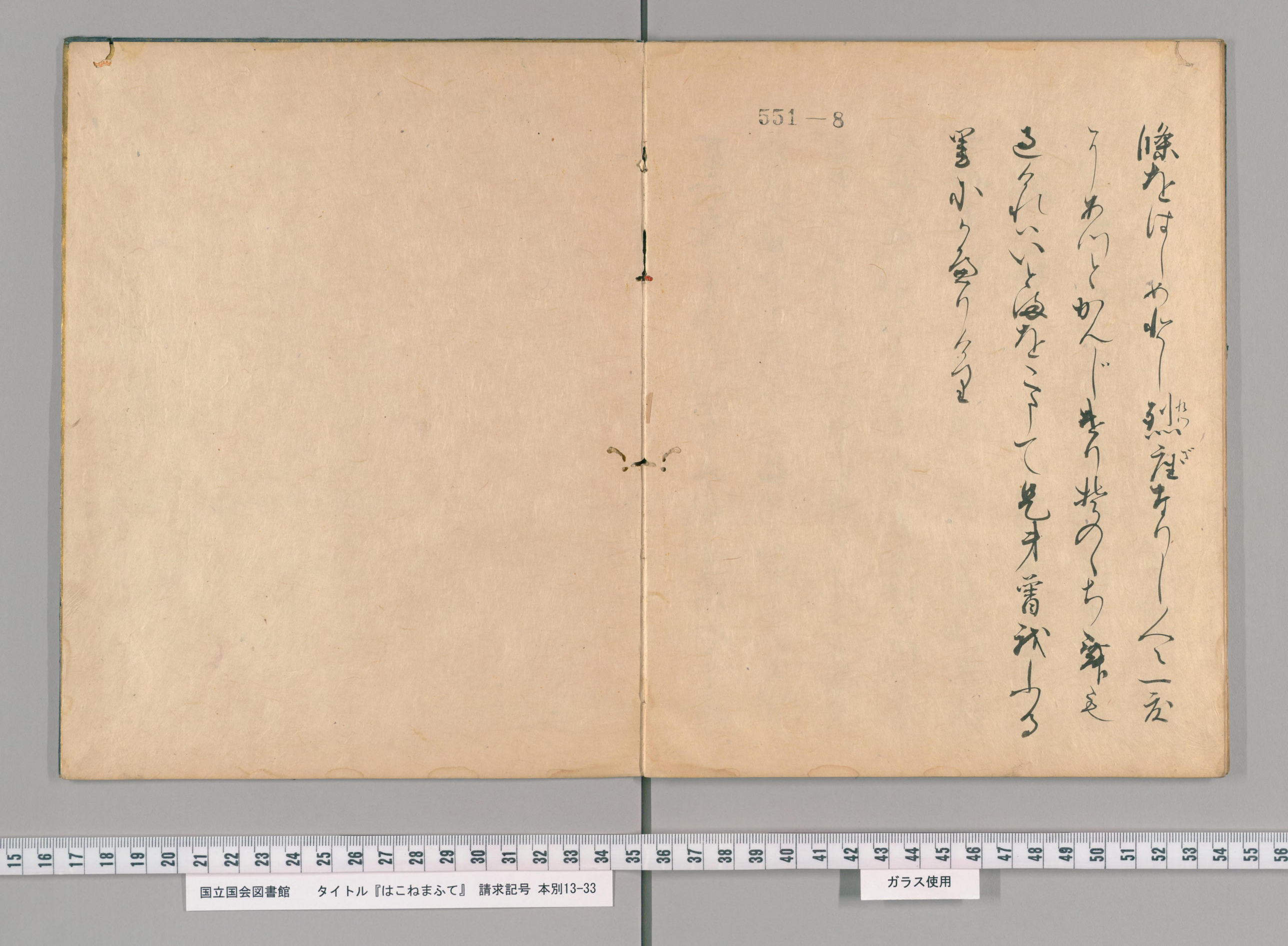
ぎ
ひ
ち
ぎ
ぎ
ぎ

とくちあいやとれわ　いかれけれ
後ちなばりたつこ浦よい清井拍子嵯よい
十郎夜一所ふいてまひたをちこせなば
ひたう中ま祐成のれ家ん兵ひうせ
をけ祐助ろ後乃ちこ〜ぐんかこ一ふ
でとこれらけちうきこうめれく
ぬで物をとれわ　ぬんたらまでいぎ
実の奥を所ぬいきやれ物りり

一をいをこそとうちれ　まんやしつ
ちうの中ま紀ろうむりをいか
月ちすうを乳堂り物を今よまさい
やれ屋ちたこをうひたう行を
ちやちしを江戸ふいそう　まひ武
さいやとりひて口うれ　ぬいをそ行ちう
ろ表をはめうれ　ぬれは毋を
ぬ一　姫小松と三遍えて　ぬれそれ

国立国会図書館　タイトル『はこねまふて』　請求記号 本別13-33
ガラス使用

551－8



国立国会図書館　タイトル『はこねまふて』 請求記号 本別13-33
ガラス使用

別13
33

国立国会図書館　タイトル『はこねまふて』 請求記号 本別13-33

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『はこねまふて』 請求記号 本別13-33

ガラス使用